



- 01 臍ヘルニアのお話  
外来からのお知らせ

---

- 02 ふれあい祭り2023を開催しました  
2病棟の子どもたちの生活のひとコマ  
5病棟の生活のひとコマ⑧

---

- 03 やまばとギャラリー情報コーナー  
異動のごあいさつ  
正しい鼻のかみ方  
オリジナル“みえツウちゃん”作品コンテスト

---

- 04 病院からのお願い／外来診察のご案内

# 臍ヘルニアのお話

小児外科が扱う疾患にはいろいろなものがありますが、今回はその一つ、臍ヘルニアについてお話ししましょう。

赤ちゃんが生まれた時、おかあさんとはへその緒(臍帯)でつながっています。そのため臍帯は赤ちゃんが生まれた直後にクリップなどで血のめぐりを遮断して切ります。その後、1~2週間で臍帯は脱落し、臍輪(臍帯が赤ちゃんの腹壁皮膚と付着していたリング状の部位)は縮んでいきます。皮膚や筋膜(筋肉を包んでいる比較的しっかりした膜)、腹膜(腹壁の内側を裏打ちするような薄い膜)がくっついていって収縮して凹んでいき、臍輪が閉鎖して臍が出来上がります。臍輪が閉鎖していく途中、まだ筋膜が完全にくっついておらず穴(ヘルニア門)が残っている時に、おなかに圧力が加わると、そこから腸管(ヘルニア内容)が腹膜(ヘルニア嚢)に包まれてとびだしてくることがあります。これが臍ヘルニアです。本邦では4%ぐらいにみられると言われています。

症状は生後1か月すこし前くらいに多く現れます。啼泣時に臍部が膨隆しますが、安静時に指で圧迫すると容易にへこみます。生後3か月くらいまでは次第に膨隆が大きくなることもありますが、何もしなくても1歳頃までに80%くらい、2歳頃までに90%くらいが自然に治癒していきます。臍ヘルニアは様子を見てもよい疾患です。

合併症としては嵌頓(膨隆以外の症状を有し、急に発症した自己還納できないもの、または用手還納後も症状の消失しないもの)とびだした腸が戻らなくなって締め付けられている状態)がありますが、極めて稀とされています。しかし稀とはいえ嵌頓することもありますので、臍の痛みを訴えたり、機嫌不良がみられたりして、臍が硬く膨隆しておさえてもへこまない場合は、すぐに医療機関を受診して下さい。本院は臍ヘルニア嵌頓に遭遇する確率が高いほうですが、それでも約30年間に臍ヘルニア嵌頓は3例です。同期間の本院での臍ヘルニア手術症例数は324例で、この他に自然治癒して手術にいらなかった例があります。膨隆が大きくなると皮膚が破裂するのではと心配になりますが、筆者にはその



経験はありません。

臍ヘルニアの治療についてですが、近年、乳児期の本症に対する圧迫療法の有用性が報告されてきました。そのまま放置するよりも皮膚の余りが少なくなり、短い期間で治癒すると言われていました。圧迫療法の具体的な方法や成績には様々な報告があり、統一された方法はなく、一定の見解は未だ得られていないようです。圧迫療法は早期に開始したほうが、治癒率が高いと言われています。また治癒せずに手術となった場合でも圧迫療法を行っておくと手術が容易になる場合があります。圧迫療法を施行した際の合併症として頻度の高いものは固定に使用するテープによる皮膚炎の発生です。皮膚炎が生じた場合はいったん圧迫療法を中断せざるを得ません。筆者は圧迫療法の御希望がある患児には綿球を用いて圧迫固定し、週に1回程度外来に通院していただいて圧迫固定を交換しています。膨隆が小さくなれば綿球を用いない圧迫固定方法を指導し、御家庭でテープを貼り替えていただいています。生後6か月以降に受診された患児には、有用性が少ないと言われているため圧迫療法は積極的にはお勧めしておりません。

1歳を過ぎても治癒しない場合は、自然治癒傾向が乏しくなっていますので、御家族と相談の上、手術を行っています。手術はヘルニア門を閉鎖し、必要があれば臍の形を整える形成術を付加します。

臍ヘルニアなど臍に関して、気になること、困っていることがあれば、一度小児外科を受診してみてください。

(小児外科 中澤 誠)

## 外来からのお知らせ

代 診  
[小児科] 12/5(火) … 有馬⇨木村  
[小児科] 12/8(金) … 木村⇨有馬

当院の都合で急遽休診が出る場合があります。気になるようでしたら、受診当日、当院までお問い合わせください。